おもかげ　温かい心と技術で別れ支える

「おもかげ」は、残された家族が故人と過ごす最期の時間を大切に寄り添う

故人に語りかけ、頬に触れ、別れへの準備を進める。遺体管理、グリーフケアを専門に行う株式会社おもかげの嘉陽果林代表は、こうした家族と故人の最期の時間を大切に守り、寄り添う。

納棺師として働いていた頃、故人の着替えを手伝いたいという家族の申し出は断るしかなかった。その苦い経験が、「家族を置き去りにしない、家族の仕事を奪わないことが大切。家族と一緒に何ができるかを考え、故人様のためにしてあげられることは何でもサポートしたい」という強い思いの原点だ。「動かすことも、触れることも大丈夫。思っているよりも家族ができることは多い」と嘉陽さん。

その信念を、事故などでの激しい損傷の修復、顔周りのがんによる腫瘍の除去と肌色の復元、変化が早く繊細な処置が必要な乳幼児の遺体管理などにも対応できる高度な技術が下支えする。修復箇所の増加や複数回の着替えなどにも追加料金が発生しない定額制を採用し、故人と家族の希望をかなえながら、火葬日まで毎日通って遺体の状態に応じた処置を施す。

残された家族の心のケアにも真摯に向き合う。「故人の手を握り、声をかけて触れ合うことが死の受容につながり、その後の家族の心を整える」と、納棺の際に組まれた手をほどき、マッサージを施して触れてもらう。冷たさを感じること、変化していく故人の姿を見届けていくことは、家族に故人との別れの準備を促す大切な体験になるという。できる限り家族と一緒にメークなどの処置を行い、子どもたち、孫たちにも参加してもらっている。

「故人に生前同様に語りかけ、触れることをためらわない。他地域にはない沖縄の温かい死生観を守り、次の世代へ手渡していきたい」。強く、迷いのないまなざしで未来を見つめる。

「沖縄の温かい死生観を次世代へ手渡したい」と話す嘉陽代表

かよう・かりん　浦添市在住。東京でバスガイドとして勤務後、沖縄へ移住。2017年、県内初の遺体管理会社「おもかげ」を設立し、遺体修復と遺族のグリーフケアを担う。上級終活カウンセラー、京都グリーフケア協会認定上級グリーフサポーター。２児の母。